

# 空襲、疎開：体験語り合う

## 「すいとん」など試食 平和への誓い新たに

60回目の広島原爆忌を迎え、府内の会社員や田彰子代表が、戦時中の体験談に戦後を味わう会を開催した。約40人が参加、平和への誓いを新たにしました。



戦時中の料理を食べながら、体験を語り合う参加者（中央区で）

参加者は、中央区の大阪国際平和センター（ピース大阪）で大阪大空襲の遺品や写真を見学した後、終戦前日の空襲で身元が判明しただけで236人が犠牲になったJR京橋駅を訪れ、慰霊碑を参拝した。

その後、同区内の飲食店で、サツマイモのツルやはったい粉などを材料に再現した「すいとん」などを試

食。防空壕で過ごした夜や疎開先の寂しき、つらさなど体験者の話に、戦後生まれの人たちがメモしながら聞き入った。大阪砲兵工廠で働いて

いた池田市の主婦、中島民辻和子さん(71)は大阪大空襲で転がった死体を避けて逃げ惑った。夕焼け空を見つめると、今も空襲の恐怖がよみがえるという。「32年の教師生活でもっと子供たちに戦争の愚かさを伝えるべきだった、と後悔が残る。自分の経験を伝える最後の機会だと思って参加した」といい、持参した日記帳を見せながら、当時の生活を振り返った。

高槻市の元小学校教諭、